

1. カトリック（旧教）を批判・否定して、プロテスタント（新教）を成立させた思想運動。信仰の自由を求めて、原始キリスト教に回帰した。 1
2. **PERSON** 贖宥状販売に反対し、ドイツの宗教改革を始めた16世紀のヴィッテンベルク大学神学教授。 2
3. **BOOK** 「人は信仰によってのみ義とされる」という信仰義認説が中心の、ルターの主著。 3
4. 1517年、ヴィッテンベルク教会の扉にルターが掲示した、贖宥状販売反対の文書。これを宗教改革運動の開始とする。 4
5. これを買った人は原罪（宗教上の罪）の贖あがないが宥ゆるされるとされた、カトリック教会発行の証書を何というか。 4
6. ルターが、「救いの知らせ」を信じ罪を悔い改めることを説いた教え。 6
7. ルターが「人が義（ただしい）とされるのは、ただ信仰による」と説き、ルネサンスの文化人と異なり自由意志を否定した教え。 7
8. ルターが「聖書のみ」と唱えて、教会の権威を否定した教え。 8
9. ルターが「全ての人は信仰を通して直接神とかかわる」と説き、聖職者の権威を否定した教え。 9
10. ルターが「全ての職業は天職」と説き、ルネサンスの万能人のような生き方でなくてもよいとした考え方。 10
11. **PERSON** 16世紀、ネーデルラント（今のオランダ・ベルギー）の人文主義者。過激を嫌う平和主義から宗教改革には中立的。主著は教会の腐敗や王侯の悪を風刺して、宗教改革にも大きな影響を及ぼした『愚神礼讃』。 11
12. **PERSON** フランス出身で、スイスのジュネーヴに招かれて16世紀に宗教改革を成功させた人物。 12
13. **BOOK** 予定説が中心の、カルヴァンの主著。 13
14. カルヴァンが「個人の魂の救いは神によって予（あらかじめ）め決定されているので、人間は神の栄光の実現のために生きる存在」と説いた教え。 14
15. 予定説が職業召命観と結びついて、禁欲（儉約）と勤労を奨励し、営利活動と蓄財を肯定したカルヴァンの思想が土台となった経済の在り方。 15
16. **PERSON** 主著『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』で、カルヴァンの思想が資本主義経済の精神的土台となったことを明らかにした、19・20世紀のドイツの社会学者。 16

T. Q. 「『近代幕開け二つのR』とは？ また、それぞれ人間の自由意志をどう考えたか？」

T. A.

二つのRのうち一つは、ルネサンスである。ルネサンスでは、人間の自由意志を人間が創造者に近づく手段と考えた。また、もう一つのR = 宗教改革は、人間は信仰を重視したり神によって予め救いが決定されているという予定説の考え方を持つので、人間の自由意志を認めはしなかった。